

まちの史跡めぐり……(88)

町文化財専門委員 石瀧 豊美

江戸時代へようこそ(1)

= タイムスリップから始めよう =

福岡藩はいつ成立したのでしょうか。「福岡藩」という名称は「福岡」に城があり、城を囲んで城下町があったことに由来します。福岡藩の初代藩主黒田長政が筑前に入つたのは慶長五年(一六〇〇)十二月。その前は豊前の中津にいたのですが、これを中津から福岡へ移つたとは表現できません。なぜなら、そのとき福岡はまだ影も形もなかったからです。長政は関ヶ原の合戦で手柄を立て、家康から筑前一国を与えられます。堂々たる国持ち大名に出世したわけです。そして最初に入ったのは名島城でした。小早川氏の築いた名島城は海に面した海城です。瀬戸内海で勢力を築いた小早川氏は水軍を率いていたので、その城は海に開かれていなければならなかったのです。しかし、黒田家には海上から来る敵に対する備えがないので不用心に思えます。また、博多から遠く、多々良川を隔てている点で、経済的には発展が見込めません。当時、博多は堺とならぶ海外貿易の拠点ですから、博多を城下町に取り込みたいた長政は考えました。

そこで、博多の西、那珂川の向こう側に城下町を開き、南方から西公園へと連なる丘陵部に城郭を築きました。城地の上にあった警固神社は現在地に移され、城の南側は六本松・谷方面の山との間を切断して城の周囲に堀をめぐらしました。大濠は元々は入り江だったところですが、それを堀の一部としました。たいへんな土木工事が実施されたのでした。こうしてできあがった城下町に「福岡」という名を付けたのは、黒田家の祖先がかつて住んでいた備前の福岡(岡山県)にちなんでのことだと言われています。確かに先祖の地には違いありませんが、私はもつと積極的な意味があつたのではないかと思います。城下町には鶴岡とか亀岡のように縁起のいい名が好んで選ばれます。「福岡」はびつたりです。城地に選ばれた山はもともと福岡と呼ばれていたもので、そこから連想したということもあるでしょう。備前福岡は中世に反映した「福岡」の市(のあったところ)ですから、新しい城下町に付けるにはうってつけでもあります。地方都市の商店街に「銀座」と付く例が多かつたようなもので、縁起のいい名を選ぶことで、城下町としての発展を願つたと見て間違いないでしょう。

廃藩置県によつて福岡藩は福岡県と変わりました。その後、合併を繰り返しながら明治九年(一八七六)に現在の福岡県になりました。長政が四〇〇年前に城下町に別の名前を付けていたら、今ごろは福岡県ではない、別の名前の県が存在していたことになりそうです。福岡城は七年をかけて完成したとか、一三年かけて未完成に終わったとか、いろいろな説があります。今のうちに着工、完工のきちんとした記録もないので、実際にはいつか福岡城の四〇〇年目に当たるのか、「福岡」という名称がいつから使われ始めたのか、不明というしかありません。正確に言えば、名島城にいた時代は名島藩、福岡城を築き移転してからは福岡藩ということになります。通常は名島城時代も含めて福岡藩と呼んでいます。福岡城の築城も、ほぼ四〇〇年前と言え、当たらずとも遠からずということでしょう。

江戸時代の須恵町の姿はどうなっていたのか。人々の生活はどう行われていたのか。タイムスリップしたつもりで、ひとつご案内することにしましょう。須恵町は昭和二十八年(一九五三)、須恵村が町制を施行して誕生しました。言わば、須恵村が須恵町に昇格したということです。それで、昨年は町制施行五〇年の節目の年でした。では、その元になった須恵村はいつ誕生したのか。この須恵村は明治二十二年(一八八九)に全国的に実施された市制・町村制によつて発足したのです。それまで市というものはなかったのですが、この時、市制の実施で初めて市が誕生しました。福岡県では市となつたのは、福岡と博多が合併した福岡市と、久留米市だけ。同じ城下町でも小倉は小倉町でした。糟屋郡では箱崎だけが町で、他には仲原村・志免村・須恵村・宇美村・多々良村・篠栗村・勢門村・大川村・山田村・香椎村・立花村・青柳村・小野村・席内村・新宮村・和白村・志賀島村・久原村の一八カ村。その糟屋郡一九カ町村の一つが(須恵村)だったというわけです。さらに、明治二十二年の町村制の施行で(須恵村)が誕生する前はどうかだったのか。この時の(須恵村)は江戸時代の村七カ村が合併したもので、その七カ村というのは、佐谷村・新原村・上須恵村・須恵村(下須恵村)という場合もあります。旅石村・植木村・本合村。本来なら、この七カ村は新しくできた(須恵村)で七つの大字を構成するはずでしたが、本合村は明治の初めに植木村と合併していたので、大字は佐谷・新原上須恵・須恵・旅石・植木の六つで、大字植木の内、元の植木村を甲植木、本合村を乙植木と呼んで区別することになりました。

須恵町大字須恵という住所表示で、大字の後の「須恵」は江戸時代の須恵村の区域であることを示しているのです。このように、現在の須恵町には江戸時代には七つの村があつたことになりそうです。そのそれぞれの村について、次回から江戸時代の姿を眺めてみることにします。

久我記念美術館

8月企画展 8月1日(日)~29日(日)
(月曜、13日~15日休館・入場無料)

山本隆明 個展

8月の久我記念美術館は、1日から29日まで「山本隆明 個展」を開催します。山本さんは、津屋崎町在住の彫刻家です。鉄を素材に、館内だけでなく館外にも作品が展示されます。

写真を掲載した作品に関する、山本さんのコメントです。



COMP 900×1800×2600 鉄

“過去から未来へとつながっていくもの、ちょうど遺伝子(DNA)のように繋がりが、ある方向へとのびていく形を考えながら製作しました。”

略歴

- 1980 福岡教育大学卒業
- 1987 福岡県展(以後毎年出品)
- 1990 DOT展(以後毎年出品)
- 1991 アーティストフェスティバル福岡(天神イムズ前93年、博多駅前94・95年)
- 1992 第1回アジア現代彫刻展 海の中道海浜公園
- 1993 第2回アジア現代彫刻展 トンベク美術館(釜山・韓国)
- 還元祭Ⅲ 福岡天神アトリウム
- 1994 津屋崎現代美術展 津屋崎町
- 1995 アジア現代彫刻会台湾交流展 台北美術館
- 1999 福岡県美術協会賞受賞
- 亜州當代彫塑 高雄市立美術館
- 日本・韓国・台湾
- 2003 アジア現代彫刻会国際交流展 福岡アジア美術館

7月の企画展

7月3日(土)から18日(日)まで『久保サチヨ・伊東美代子・山口香寿子 三人合同展』を開催します。



CHAIN 150×12×120000 鉄